

金沢八景ウォーキング実施もよう

- 1.日時：2024年6月22日(土) 10時～15時30分
- 2.集合場所：京浜急行 金沢八景駅
- 3.参加者(敬称略)：阿部、加藤(實)、甘粕、高橋、松浦、佐藤(忠)、前島、平野、小林、宮本、篠崎 埼玉から2人 神奈川9人 計11名
- 4.コース：金沢八景駅～瀬戸神社～枇杷島神社～平潟湾プロムナード～夕照橋～野島公園展望台～旧伊藤博文別邸～(シーサイドライン)～称名寺～金沢文庫～金沢文庫駅
- 5.実施もよう

昨日梅雨入りが発表された翌日、梅雨の合間の晴れ天気にも恵まれたウォーキングでした。



金沢八景は鎌倉時代から景勝地でもあり鎌倉幕府の外港として栄えた地域であった。

八景とは中国広州西湖の風景を詠んだものが横浜金沢の海と山とが織りなす景勝を八景に重ね合わせ詠んだもので、必ず「秋月、帰帆、暮雪、晚鐘、落雁、夜雨、晴嵐、夕照」が題となる。江戸時代、歌川広重の浮世絵で有名になったが今では湾のほとんどが埋め立てられ昔の面影を偲ぶことができない、そこで今回は幕末から明治初期の古写真を見て昔の金沢八景に思いを馳せながらのウォーキングとなった。



駅から近い瀬戸神社へ参拝、境内では氏子たちが無病息災を願う「茅の輪くぐり」の行事に使う茅の輪の作成が行われていた。

ここで本日の安全を祈願し出発である。

次は神社の道路を挟んだ対面にある枇杷島神社へこの神社は北条政子が建立、ここは八景の一つ「瀬戸秋月」の場所である。



平潟湾の風景を楽しみながら平潟湾沿いに作られた散歩道路「平潟湾プロムナード」に行く。ここから瀬戸橋を眺め、古写真により、昔の風景と見比べて観る。変わらないのは枇杷島だけである。昔は瀬戸橋の奥にも湾が広がり金沢文庫駅の場所も海の中であった。変化の様子が一目で理解できる。

間もなくして夕照橋へ、対岸の北側は昔の塩田、古写真で確認するも今は全くその面影もない。



この周辺は八景の「州崎の晴嵐、平潟の落雁」の場所でもある。

橋をわたり少し休憩
「野島の夕照」の野島公園展望台まで約40mの高度差、緩やかな道にするか、約300段の階段に行くか？皆さん

の意見は元気よく階段にまとまり、階段へ途中で足を吊った人もいたが、漢方を服用し直ちに回復、回復の速さにびっくりこの薬、山へ行く人の常備品で「ツムラ 68 芍薬甘草湯」である。お腹にも効くとので事ぜひ常備をお勧めする薬です。



展望台からの景色は360度素晴らしい景色である。房総や、三浦半島、横橋の山々、そして富士山、眼下には八景島、海岸では干潮だったのでアサリ採りの人で混雑、アサリより人の方が多いうな！

展望台下にベンチがありトンビに気をつけながら昼食

その後南側が良く見える場所へ、夏島の近くに茅ヶ崎の海と同じような「烏帽子岩」があった。古

写真と浮世絵にはいろいろ描かれているが、ここに大正7年頃追浜飛行場をつくるため烏帽子岩は壊され平地となり、今は日産の工場と自動車試走路となっている。



野島公園の展望台を下ると旧伊藤博文公別邸がある。今は横浜市が管理し無料で中を見学することができる。ここを見学し次は横浜金沢で有名な称名寺へ、少し距離があるのでシーサイドラインを乗ることとした。

野島公園～海の公園芝口駅の2区間で、高架のモノレールなので車窓からの景色が素晴らしく観光客が多く乗車していた。皆さん初めて乗車する人が多く、記念乗車気分である。

モノレールを降り、少し長い住宅街の道を行くと間もなく八景の一つ「称名の晩鐘」の称名寺に到着



称名寺は金沢北条氏の菩提寺、北条貞顕が建立し仁王門の両側に鎌倉時代に作られた大きな仁王像が安置している。迫力がスゴイ仁王門横の通用門から中へ、庭園は中之島、反橋、平橋、池を配置した浄土庭園となっている。池は錦鯉、ミドリカメが多く目につく。

金堂、釈迦堂、鐘楼がある、ここでお参り、日陰で一服してから寺の裏口からつづくトンネルをくぐり県立金沢文庫へ、金沢文庫は金沢北条氏がルーツとなっており、公開はしていないが絵図、彫刻、工芸品、古書等国宝や重文が数多く保管されている。シルバー料金で入館「江戸当世図上旅行」の企画展があり主に昔の観光案内書や絵図、また復元した称名寺の「弥勒菩薩」など観賞し金沢文庫駅へ



ここでウォーキングは解散、有志での懇親会を実施 9 名の参加、暑かったのでビールが最高、大いに盛り上がり皆さん元気そのもの、この時ばかりは歳も忘れ気持ちは青春、自己紹介や思い出話で花が咲きました。

皆さん一日大変お疲れ様でした。(幹事：宮本、高橋)